



昭和43年2月15日
旧校地より音楽室を移築

ま
ち
か
い
み

千葉県立佐倉
東高等学校
同窓会
佐倉市内町 278
TEL043(484)1024
FAX043(486)0995

道徳実践室(通称 同窓会館)

同窓会会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。日頃暖かいご支援ご協力を賜りありがとうございます。

ここ数年の佐倉東高校の発展ぶりは目覚しく、校舎に一歩足を踏み入れただけでもその変わりようが窺えます。各学科共、優秀な卒業生の輩出もあり、部活動の種目も増加し活発さが感じられます。演劇部の朗読「丹鈴」の上演は私達の大先輩の戦争体験を綴った記念文集からで、各方面から喝采を博し出演依頼が殺到しているとのこと。また平成二十一年度の文化祭では新型インフルエンザで近隣高校は一般公開中止のなか、その猛威も寄せつけず、全校生徒・先生方が一体となってベクトルの蓋三万個で校舎壁面に「愛」をテーマに巨大モザイクを作成したことは多くの新聞紙上で報じられました。これも偏に生徒さん方のご努力は勿論のこと、先生方の良きご指導の賜と嬉



揺るぎない発展を

会長 内田 正恵

(昭和三十三年卒旧姓渡辺)

しく思います。

同窓会も男性会員が年々増え頼もしく、今後大いに期待できることを確信する次第です。今まで同窓会総会のあり方を試行錯誤してまいりましたが、皆様のお声かけのお陰で昨年から多数の方のご出席をいただき会員相互の親睦を深めることができるようになりました。そして、今年度は母校の発展への寄与としてできる範囲のご協力をと、後援会と合同で校門の脇に防犯も兼ね掲示板の設置を予定しております。

先輩の方々が永い年月に亘って築き上げてくださいましたこの歴史ある東高校同窓会が益々充実し、会員皆様の誇りとなり母校のために尽くすことができましたらと考えております。

母校と同窓会の揺るぎない発展と皆様方のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



世に立つ範

校長
仲野 仁

四月に着任し、百数年の伝統を感じさせる樹木、扁額、当時の写真などに不思議な緊張を感じております。

伝統は何なのか、目に見える伝統もあろうかと思いますが、目に見えないものこそ学校では重要だと考えます。私は独断的にこうとらえています。そこで学び、教えた一人ひとりの日々の思いが、数万人分・何万日分積み重なったものではないかと思っています。それが雰囲気となつて代々受け継がれて、現在その学校で生活する生徒や職員の考え方・言動・生活の仕方に影響を及ぼしているものではないでしょうか。

先日、「創立百周年記念誌」に目を通しておりましたら、佐倉町立佐倉女子技芸学校から現在の千葉県立佐倉東高等学校の間に流れているものは何なのか気がになりました。印象的でしたのが「上品で真剣で最後まで」「言葉遣いや礼儀に厳しかった」「清掃学校」という言葉でした。また、戦中

から残る「真摯醇正」の言葉、卒業生である方々の立居振舞いや言動をつなぎ合わせるおぼろげながら浮かんでくるものがあります。時代や性別といった規矩を持ち出す必要はありません。

私は、過日高校時代の同期同窓会に出席しました。懐かしい会話の後、青春時代、特に高校時代のさまざまな感情や当時の世相と生活が現在の自分の芯になつていくように感じました。生徒たちが生きていくためにこの

佐倉東高等学校の「伝統」のもつ力はきつと大きな意味があると信じております。多くの思い出や学びの中で現在の生徒たちも伝統に支えられ、伝統を生み出していくものと思います。

ご縁を大切に
いたします教頭
川勝 里文

私は、佐倉市立上志津中学校を初任とし、佐倉中学校、四街道北中学校、臼井南中学校、八街中央中学校に勤めて

総会にて



おりました。その後、千葉県教育振興財団に勤務し、この四月本校に着任いたしました。高等学校への転勤は自分自身も驚きましたが、周囲の方々も驚かれています。隣の佐倉中学校に九年間おりました関係から

当時のPTAの方々が同窓会役員として活躍されております。編集委員会や本部役員会等で驚きと懐しさの再会を果たすことができました。

平成七年から平成八年に佐倉中が新体育館建設工事の際に佐倉東高等学校の体育館を幾度か借用させて頂きました。今年度は本校体育館の耐震補強工事(十月〜三月)が予定されております。これも何かの縁だと思ひ、あの時のご恩返しが多かたと思ひております。過日開催されました平成二十二年度同窓会総会・懇親会及び歓送迎会に参加させて頂きました。そこでも新たに元佐倉中PTAの方々とお会いすることができました。私は、佐倉市内の中学校勤務が最も長く、この「佐倉」の風土とここで出会えた多くの方々に育てて頂きました。縁あつて佐倉東高等学校に勤め、同窓会、PTA、後援会の方々と知り合えたこと(再会できたこと)に感謝いたします。

本校の一層の発展のため微力ですが努力してまいりますのでよろしく願いいたします。



平成22年度 総会に出席して

愚直の教えに偲う

吉田 とく

(昭和二十九年卒)



がありました。戦時中の先輩の経験談をもとにストーリーは企画されたようでしたが、セーラー服に紺のモンペ姿の演出には当時が思い出され涙が一筋二筋と流れました。素晴らしいステージでした。

また、「まさかゞみ」の同窓会報も近年はカラー刷りとなり、初代石井まさ会長からこの会が引き継がれていることに心から感謝の念を感じる次第です。

六月十九日、ウイシユトンホテルユウカリで開催された二十二年度母校の同窓会総会に出席させて頂きました。

会場のテーブルには美しい花々が飾られ、華やいだ大勢の方々が既にお着きでした。その中におひとりの男性がおられました。男女共学の高校となり、既に卒業生が同窓会のお仲間入りをされておられ、時の移ろいに驚きました。

議事は滞りなく進み、総会後に在校生演劇部の皆さんによる朗読

ばかり正直に生きて来たこと、愚かだと思える程に素直な心でひた向きに努力できたことは将にこの母校の教えあったればこそと深く偲うのです。

上げられることに深く感謝申し上げます。内田正恵会長はじめ役員の方々のご苦勞に感謝し、末筆ながら母校のご発展と在校生の明るい未来を祈つてやみません。ありがとうございました。

同窓会に参加して

旧職員 加藤 茂 正

(昭和四十七年〜平成二年)

初めて佐倉東高等学校の同窓会に参加させていただいて楽しい一時を過ごさせていただきました。

変動の波に惑わされることなく校訓の「真摯醇正」を旨として先輩たちが営々として積み上げてきた努力によるものだと思うとその感動はまた一入のものがあります。いつその発展を祈っております。

私達二十九年度卒業三年F組のクラス会は二年毎に開催しています。遠くは九州熊本から、群馬、神奈川とかなりの時間をかけての参加ですが、集まった時の会話の勢いは留まることなく、当時の学校の様子、諸先生のお話し、お弁当のことで、テスト用紙を返された時のざわめきなど。すべての思い出語りの雑談の中に一つの教訓が感じ取れるのです。

『真摯醇正』の校訓と共に愚直の精神を学んだ絆が夫々その人生の最も基本になっていること見えぬ糸に気付くのです。

私が佐倉東高等学校に着任しましたのは昭和四十七年の四月のことですが、それから実に十八年もの長い間勤務させていただきました。従って高校を中心とした佐倉の町は私にとっては第二の故里と言つてよく、八十路に入つた今でも一年に何度かは訪ねて、かつての同僚や生徒たちと旧交をあたためています。

同窓会に出席させていただいて私が感動したのは、長い年月をかけて佐倉東高等学校が創り上げた伝統の輝きでした。激しい時代の



クラス会に出席して

須藤 玲子

(昭和三十三年卒 旧姓柿尾)

平成二十二年三月下旬、桜の開花を目前にしながらも肌寒い日でしたが、第五回のクラス会が佐倉のこじんまりした和風のお料理屋さんで開かれました。出席者は十九名。クラスの半数に満たない人数でしたが、古稀を迎えた年齢には見えない程、皆若々しく綺麗で元気でした。

昭和三十三年に卒業して以来、四十



代にして初めての会が開かれたのですが、その時発起人になって皆の追跡調査から開始して下さった富澤さん、早川さんのご尽力には、私達全員本当に感謝しております。その後しばらく間があつて六十代になってから又、お二人の努力で会が復活しました。年齢のせいでしょうか、昔を懐かしむ気持ちの方が強まるせいでしょうか、クラス会は若い時より盛り上がるようです。学生時代の様に遠慮なく安心して語り合い、笑いあい、又の再会を約束して散会しました。

普段の生活に戻り別々になつても、友たちの存在が心の励みになつていきます。永い人生を過ごして来て様々な体験をし、今は昔を振り返る事の多くなつている私達ですが、良い時代に女子のみの高等学校で受けた教育が、精神構造の大きな骨組みとなつて居る様に思えます。誰もが年を取つてしまった現在も、しっかりと明るく生きていくという感じがします。

次会はいつになるかはつきりとした取り決めはしませんでした。きつと又、逢いたい気持ち湧き上がつて再会する様になるのだと思います。皆元気でいて欲しい、その時は又、今回の様に輝いた表情で楽しい時間を共有したいと心から思います。

つづいているクラス会

佐藤 郁子

(昭和四十八年卒 旧姓成田)

卒業してから三十五年、クラス会は幹事をバトンタッチすることです。がつています。

今回は七回目で、久古さん(旧姓篠崎)に引つ張つて頂き幹事をさせてもらいましたが、今までつなげて下さった方々が「すごいな」と思うことは、住所が変わつた方が多い中、皆に連絡が取れることです。

平成二十年九月二十七日にクラス会を行い、都合がつく方と食事会の前母校の文化祭におじゃますることができ、思い出の校舎や懐かしい教室の前で写真を撮り、男女共学となつた活気と若さを感じることができました。

しかし、駅から学校までの風景は変わり、道に迷つたのですが、おかげで佐倉の町の新たな発見もあり、武家屋敷跡も素敵でした。その後の食事会でも地方に住んでいる方から「四季折々素敵なのがあるのよ」との声が聞かれ、次の再会を約束したり、学生時代のことや現在のことを語りあい、またカラオケを歌ってくれる人にとにぎ

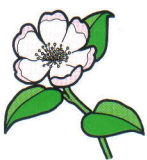
やかな会になりました。

高校入学で出会い、今また月日を重ねて再会し、友に逢ふことでその時代の自分とも出会っているような、そんな気がするのには私だけでしょうか。何年も会わなくてもクラス会で友に会うと、その当時の思い出にいつの間にか戻っているそんな時間でした。



皆さんも忙しいでしょうが、クラス会のお知らせがきた時には思いきつて出席してみてください。

幹事も次の方にバトンタッチをしました。



古稀をお祝いして

関 口 裕 子

(昭和三十三年卒旧姓伊藤)

毎年六月に行われている母校の同窓会総会に、約十年以上は参加させて頂いております。ある時は役員さんたちと一般の同窓生が何人か参加された事もあったように記憶致しております。

最近では参加人数も大分増えてきて特に平成二十一年度の総会はいくつの方々に懇親会にも出席頂き大盛況であつたと思います。その懇親会の雰囲気は非常に感動的で熱気のあるものでした。久し振りにお会いした方々が、歓声、拍手、肩を抱き合い、喜び合う光景でした。その中で、高校の同窓会には、特に熱心で厚い気持ちの持ち主でいらっしゃる山田正子さん(旧姓石渡)から「今年は七十歳と記念の年でもあり、古稀をお祝いして、ぜひクラス会を計画しましょう」と、お話がありました。もちろんすぐ皆さん賛成のもと決まり、気持ちは早クラス会へと次々に色々な話題になりました。幹事は、成田地区の四人で担当し、十一月六日に行われる事となり、二、三回の打ち合わせをして、住所を調べ全員に連絡をする事ができました。同窓会総

会から五ヶ月は、すぐにたつてしまいい、当日は晴天に恵まれました。会場には、大きな花瓶にきれいな祝花が生けられ、私の未熟な書ですが「祝古稀」そして特別に注文した朱色の記念文字入りの「湯呑茶碗」を記念品としました。幹事が皆で知恵を出し合い、楽しいクラス会となりました。記念写真も



祝古稀 佐倉東高等学校昭和33年卒業 平成21年11月8日

撮り、出席されない方にも送りました。おいしそうなお馳走を前に会が始まり、お友だちが入ってくる度に、大きな歓声があがり、懐かしさの声をかけ合いました。参加できなかった方の情報や様子など、七十歳ともなると、色々な人生模様があり、皆さんにお会いできた事が、本当に良かったと思えました。皆さんそれぞれに歌や踊りや、近況

にと、楽しい時間は、過ぎるのがとても早く感じました。毎年、一年を大切に一人でも多く、これからもお会いしたいと思っています。

朝五時から、遠く静岡より参加された鈴木久代さん(旧姓田中)は、ご主人様の運転で四時間もかけ、又楽しい旅もされたのではないかと...お疲れさまでした。

高校時代から五十年以上も厚い友情で話し合い、助け合い長い人生を送られている事、感謝しております。



食べることの大切さ

小山 良江

(昭和四十六年卒旧姓黒浜)



私は、関東・関西で有料老人ホームを経営する介護の会社の本部で栄養士として勤務しています。献立・企画を担当して日々のお食事の献立を作成しております。

『すべての方のすべてのお食事がおいしいこと』この理念に基づき、ご入居者様に喜んでいただける様に努力

しています。食事評価は、毎日の日報からすべてのホームより点数とコメントが送られて食に携さわる厳しさを痛感しながら、おいしいお食事の提供に心掛けています。入社して三年がたち食事満足度は八十五%となりました。しかし、ご入居者様の高齢化が進み口から普通に食事を食べる事の出来ない方達も増えてきました。咀嚼・嚥下困難な方の「ソフト食」もあり、最近では注目をあびてきました。食べる事が困難になると体にいろいろな弊害がでています。

①咀嚼(噛む事が出来ない)・嚥下(飲みこむ力)が弱くなり誤嚥性肺炎をおこし死亡原因の一因となります。

②活動量の低下による低栄養状態。

③身体機能の低下や脳の萎縮での認知症等。

高齢になると自分では気がつかない症状が出て、食べたくても食べる事が出来ない状態になってきます。

現代医学は進歩して口から食べる事が出来なくても生きる事は出来ます。しかし、食べる事をしなくなると口の中では細菌の温床となり肺炎をおこしてしまいます。少しでも咀嚼・嚥下機能があれば口から食べる事の出来る食事のご提供をして「おいしい!!」という笑顔が見たいのでその方の状態にあったお食事の提供が私の仕事です。

平成二十二年 総会の報告

六月十九日(土) ウィンストンホテルユカリにて、平成二十二年同窓会総会が開催されました。内田会長挨拶。新たに着任された仲野校長先生、川勝教頭先生、木下事務長先生がご紹介されました。

二十一年度事業、決算報告。二十二年事業計画と予算案が承認されました。そして本部役員の異動が承認されました。

特別協議事項として、屋外掲示板の設置について同窓会と後援会との折半での寄付の提案が承認されました。



総会后、東高演劇部顧問伊三野先生から「卒業五十周年記念誌『丹鈴』」の文集より、太平洋戦争開戦の年に入学し、終戦の年に卒業した佐倉高女二十



三回生の稀有の体験を次世代に語り継ぐための朗読「20NIREE」についてお話があり、東高演劇部四名と卒業生二名による朗読発表がありました。マイク無しで会場に響く声やセーラ服姿からもんぺ姿に変わり、当時の女学生の気持ちを表現している様子は、会場の人々に感動を与えてくれました。目の前で見ていた菊地俊子さん(旧姓密本)は「自分が体験した事で、

改めて記憶が甦り感動して涙が溢れ、素晴らしい朗読に老いを忘れたほどです」と、他の皆様も同じ思いのご様子でした。懇親会では、大沼前校長先生のご挨拶に始まり、共学卒業生の方からは「同窓会総会は、同じ高校を卒業した先輩後輩の関係で、老若男女を問わず楽しい一日を過ごすことができました」と笑顔で話してくれたのが印象的でした。新校歌を、共学卒業生と先生方が歌ってくださいました。今回は旧職員の加藤茂正先生と横内健生先生が同窓生のお声掛けにより、ご出席いただき、当時は懐かしみ、来年も参加したいとのことでした。お楽しみタイムでは、ジャンケンゲームで盛り上がりそれぞれお土産を手に。最後は八十五歳の大先輩から十九歳の後輩まで約八十名全員が、手を繋ぎ大きな輪を作り、女子高校歌を合唱し、そして卓上のお花が参加者のお土産となり大盛会の内に幕を閉じました。

お忙しい中ご出席頂き、実行委員一同感謝申し上げます。来年も会員皆様のご出席をお待ちしております。

事務局委員(密本・秋葉)

次回総会の案内

平成二十三年度の同窓会総会は、六月の第三土曜日、六月十八日に予定しております。

「寄贈」

同窓生からの学校図書館への
図書のご惠贈について

校長 仲野 仁

今年の五月十九日に昭和五十三年三月卒業の三名の同窓生が来校されました。その際、鎌ヶ谷市にお住まいの小林朗子様(旧姓西山)より、図書室の本の購入にお役立て下さいというお申し出を頂き、十万円を頂戴致しました。

後日ご自宅にお邪魔してお話を伺ったところ、日頃から小銭を貯蓄されていて、今回の学校訪問を機に決意されたそうです。

県の財政悪化を受けて、学校図書館用の図書購入費も年々削減せざるを得ない状況で、今回のご寄付については、誠に有り難く、早速生徒のために進路指導用のDVD及び千葉県出身の動物カメラマンとして活躍された星野道夫氏の全集等を購入させて頂きました。

購入図書等

一、「プロフェッショナル仕事の流儀 DVD」他四種五枚

一、「向田邦子全集」十三巻

一、「星野道夫著作集」五巻

これらの視聴覚教材や書籍は、生徒の進路決定や情操の涵養に必ず役立つと確信しております。誠にありがとうございました。

忘れてはならないもの・ 変わらないもの

演劇部部长

一年A組 伊藤 まどか

初めての朗読はとても緊張しました。最初、戦時中の話を朗読すると聞いて、私がすぐに思い描いたのは、目を覆いたくなるような悲惨な場面。私は幼い頃から祖母と大伯母達からそういう戦時中の話をよく聞かされて育ったからです。でも、台本を読み重ねていくうちに気づいたのは、そこに登場する戦時中の女学生の抱く夢や憧れ、また日々の思いは、私たち現代の女子高生のそれと何ら変わらないということでした。そんなふうにと変わらない感受性を持ちながら、「戦争」という異常事態に巻き込まれていったということ。―秋につくる



『丹鈴』のお芝居でもその辺りのことが描ければと思います。



総会後のアトラクションでは、演劇部の生徒さんによる朗読「丹鈴」のご発表を頂き迫力のある素晴らしい演技に感動致しました。

四月にご入学なされ短期間の練習とお伺いしましたが伊三野先生のご指導のもと大変立派であったと思います。そして生徒さんには、貴重なご感想を頂き感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

本部役員

(校外)

会長

内田 正恵

副会長

秋本 陽子

会計監査

清宮美智子

編集委員

海保 靖子

事務局委員

三橋 由美

(校内)

学校長 (副会長)

柳 高子

教頭

秋本 陽子

事務局長

仲野 仁

役員

平山 弘之

川勝 里文

木下久二 欧

北村 恵子

野口みどり

船岡 和美

有田美代子

お知らせ

定期異動

※春の定期異動により、大沼功校長先生がご退職され、松田ユリ教頭先生が東金高校へ、仲野純枝事務長先生が房総のむらへ、新たに七次台中学校より仲野仁校長先生、千葉県教育振興財団より川勝里文教頭先生、我孫子特別支援学校より木下久二欧事務長先生がご着任されました。

※会計監査の加藤幸子さんがご退任、後任に内田美恵子さんが、編集委員には林厚子さん、小島優美子さんがお仲間入りしました。

遮光フィルム工事

玄関、事務室前の同窓会資料展示ケース五台に遮光フィルムを張りました。

平成二十二年四月

道徳実践室

(通称同窓会館)の修繕

屋根の張り替え工事を完了しました。

平成二十一年八月

インターネットで 母校の情報を



「千葉県立佐倉東高校」で検索されますとご覧頂けます。どうぞご利用下さい。

学校では...

素晴らしい朗読劇

七月二十九日(木) 佐倉市民音楽ホールにて朗読劇「夏の雲は忘れない」一九四五年ヒロシマ・ナガサキが、ベラン女優六名と本校の演劇部員との公演がありました。満場の観客の中、マイク無しでの朗読は心に響き、ベラン女優さんにも劣らない朗読は素晴らしい。観客に深い感動を与えてくれました。公演後、主催者のお計らいにより女優さん達と、お話す場を設けて頂いた時に、感極まって涙ぐむ生徒さんの姿は印象的で、心打つものがあり佐倉東高校の誇りではないかと感じました。今回の経験を踏まえて、更に活躍されることを期待したいと思います。



◆進路別状況

	服飾デザイン	調理国際	普通	計
就職	5 (0)	8 (2)	16 (5)	29 (7)
進学	4年制大学	2 (0)	5 (1)	37 (14)
	短大	3 (0)	3 (0)	13 (1)
	専修・各種	17 (0)	16 (2)	56 (10)
家事手伝い	0 (0)	0 (0)	2 (1)	2 (1)
その他	9 (0)	5 (1)	28 (8)	42 (9)
計	36 (0)	37 (6)	152 (39)	225 (45)

() は男子

平成二十一年度 進路状況

一昨年の経済不況の影響を受け、就職は男子も女子も大変厳しい状況でした。大半の者は、二社目や三社目で内定しました。

進学は、専門学校、大学・短大への進学が更に増え、AO入試、推薦(指定校・公募・自己)入試で早く合格を決定する者が大半でした。一般入試で志望校に合格することが難しい状況は相変わらず続いています。

◆合格・進路先一覧

(平成22年3月卒) *は男子

大学

千葉大*、慶應義塾大*、早稲田大*、共立女子大、千葉工業大、文化女子大、他

短期大学

青山学院女子短大、植草学園短大、大妻女子大学短期大学部、昭和学院短大、杉野服飾大学短期大学部、千葉明德短大、他

卒業生からのメッセージ

千葉大生

森

田

峻

(平成二十一年度卒業)

僕の高校生活三年間で得たものはたくさんあります。その中でも、特に自分のためになったことは、進路を実現するために学校の授業を積極的に活用するという事です。学校での授業は、一人一人に目が行き届いていて基本的なことから教えてくれます。加えて、自主的に勉強することも大切で、そのためにも学校の授業をベースにして、わからないことは先生に質問するという姿勢が大切だと思います。佐倉東高校には進路実現のための環境が整っています。

就職でも、進学でも、規則正しい生活を心がけ、勉強して学力をつけ、コミュニケーション能力を高める指導をしています。

編集委員になって

小島 優美子

(昭和四十七年度卒 旧姓吉田)

私事で恐縮ですが、海保靖子さんに誘われて同窓会の編集委員になり、三十八年ぶりに母校を訪れました。校内に入ると校舎がとても懐しく時の流れを忘れてしまいました。初めてお会いする方々でしたが、同窓生というだけで、気持ちが繋がります。本心に嬉しく思いました。私の知らないところで、歴代の同窓会会長様及び、役員の皆様は脈々と伝統を受け継ぎ、母校発展のために尽くしておられることを知り感謝しております。伝統ある佐倉東高校に学ぶ事が出来幸せに思います。私のように学校から離れている方も多くいらっしゃると思います。一人でも多くの方が同窓会に参加し母校発展のためにお力添え頂ければとお願い致します。

編集後記

秋風の快い季節となりました。皆様方お元気でお過ごしのことと存じます。

会報「まそかづみ」も、お陰様で第三十一号発行となりました。ご寄稿頂きました皆様には、お忙しいところ大変ありがとうございます。編集委員一同心よりお礼を申し上げます。(小島)